

【在宅医療介護連携に関するアンケート】

設問1、①ご所属について

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
診療所医師	14	11.8%	8	7.8%
病院の連携部門	16	13.4%	21	20.6%
居宅介護支援事業者	27	22.7%	35	34.3%
訪問看護ステーション	17	14.3%	8	7.8%
地域包括支援センター	23	19.3%	8	7.8%
行政職員	0	0.0%	0	0.0%
調剤薬局	16	13.4%	15	14.7%
介護保険施設等	6	5.0%	7	6.9%
その他	0	0.0%	0	0.0%
合計	119		102	

●コメント

・前年度の回答数と比較すると16.7%程度増加している。

②仕事のやりがいについて(満足度)【R5年度新設項目】

		令和5年度	
		回答数	割合(%)
とても感じる	1	27	22.9%
↑ ↓	2	45	38.1%
	3	37	31.4%
	4	7	5.9%
まったく感じない	5	2	1.7%
合計		118	

設問2、三田市の連携について

①三田市の多職種・事業所間の連携のしやすさの総評について

		令和5年度		(参考) 令和4年度	
		回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい	1	8	6.7%	5	4.9%
↑ ↓	2	26	21.8%	36	35.3%
	3	67	56.3%	46	45.1%
	4	14	11.8%	11	10.8%
とても連携ににくい	5	4	3.4%	4	3.9%
合計		119		102	

●コメント

・1.2と回答した方の割合が、昨年度より11.7%低下し、3と回答した方の割合が13.2%増加している。

②全体的に連携のとりにくさを感じる連携先について

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
診療所	36	21.2%	25	19.5%
病院	63	37.1%	45	35.2%
老健、特養	11	6.5%	11	8.6%
訪問看護ステーション	6	3.5%	5	3.9%
地域包括支援センター	7	4.1%	10	7.8%
居宅介護支援事業者	13	7.6%	7	5.5%
行政	33	19.4%	22	17.2%
その他	1	0.6%	3	2.3%
合計	170		128	

●コメント

・前年度と同様、回答割合は病院、診療所、行政の順に多くなっている。

③日常療養生活の支援場面の多職種・事業所間の連携について

		令和5年度		(参考) 令和4年度	
		回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい	1	6	5.0%	6	6.1%
↑ ↓	2	25	21.0%	39	39.4%
	3	74	62.2%	42	42.4%
	4	12	10.1%	8	8.1%
連携しにくい	5	2	1.7%	4	4.0%
合計		119		99	

④入退院支援場面の多職種・事業所間の連携について

		令和5年度		(参考) 令和4年度	
		回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい	1	7	5.9%	6	6.0%
↑ ↓	2	29	24.4%	34	34.0%
	3	56	47.1%	42	42.0%
	4	17	14.3%	11	11.0%
連携しにくい	5	10	8.4%	7	7.0%
合計		119		100	

⑤患者や利用者の急変時の多職種・事業所間の連携について

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい 1	7	5.9%	5	5.0%
↑ ↓	2	21.2%	26	26.0%
	3	53.4%	49	49.0%
↓ ↑	4	16.1%	12	12.0%
	連携しにくい 5	3.4%	8	8.0%
合計	118		100	

⑥人生の最終段階場面の多職種・事業所間の連携について

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい 1	11	9.3%	6	6.1%
↑ ↓	2	22.0%	30	30.3%
	3	50.0%	47	47.5%
↓ ↑	4	16.1%	11	11.1%
	連携しにくい 5	2.5%	5	5.1%
合計	118		99	

●設問2-③～⑥ 4項目の連携場面についてのコメント

- ・3と答える割合が全体的に増加している。
- ・入退院支援場面にて1および2と回答する割合が減少し、4および5と回答する割合がやや増加している。
- ・日常療養の支援場面や人生の最終段階の支援場面においては、1および2と回答する割合が減少した。

設問3、三田市在宅医療・介護連携支援センターのホームページについて

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
活用できている	9	7.6%	9	8.8%
知っているが活用できていない	88	73.9%	73	71.6%
知らない	22	18.5%	20	19.6%
合計	119		102	

※以下、病院連携部門、居宅介護支援事業者、地域包括支援センターの方のみ回答

設問1、三田市入退院支援ルールについて

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
実践できている	24	36.4%	26	40.6%
ルールを意識していないが、円滑な連携に努めている	26	39.4%	27	42.2%
あまり実践できていない	10	15.2%	8	12.5%
三田市入退院支援ルールを知らない	6	9.1%	3	4.7%
合計	66		64	

●コメント

- ・「実践できている」および「ルールは意識していないが、円滑な連携に努めている」と回答した割合が4.2%減少し、「あまり実践できていない」「三田市入退院支援ルールを知らない」と回答した割合が合わせて7.1%増加している。
- ・「実践できている」と回答した事業所別では居宅支援事業者が55.6%と最も多かった。

設問2、入院時情報提供シートの活用状況について

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
活用できている	42	63.6%	44	69.8%
独自のシートを使用している	8	12.1%	8	12.7%
あまり活用できていない	13	19.7%	10	15.9%
入院時情報提供シートを知らない	3	4.5%	1	1.6%
合計	66		63	

参考) 同質問についての「居宅介護支援事業者」の回答

	令和5年度		(参考) 令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
活用できている	25	92.6%	26	74.3%
独自のシートを使用している	2	7.4%	8	22.9%
あまり活用できていない	0	0.0%	1	2.9%
入院時情報提供シートを知らない	0	0.0%	0	0.0%
合計	27		35	

●コメント

- ・全体的には「活用できている」と回答した割合が6.2%減少し、「あまり活用できていない」「入院時情報提供シートを知らない」と回答した割合が合わせて6.7%増加している。
- ・居宅介護支援事業者では「活用できている」との回答が大幅に増加(対前年度比+18.3%)した。
- ・多くの居宅支援事業者が入院時情報連携加算に係る情報提供ツールとして当該シートを活用されていると考えられる。

設問3、入退院支援ルールおよび入院時情報提供シートについてのご意見、ご要望

【入退院支援ルールについてのご意見、ご要望】

- ・在宅支援者からシートをいただくことで、連携室や病棟において退院にむけての支援が早期から開始できる為、病院としても助かりますし、何よりも患者さんや家族さんにとっても良いことだと思います。
- ・急性期病院から回復期や地域包括ケア病棟へ転院する際に、いただいたシートを引き継ぐことで、社会的背景や家族状況を知ることができ、在宅支援の調整がしやすい。
- ・入院前に情報が欲しいと言われるが、加算の関係で入院当日～3日間に情報共有したいと考えている。
- ・情報提供をしたら退院日の日程を知らせて欲しいです。利用者さんに聞いて知る事もあるので。
- ・連携は必要だが、包括が担当する要支援者の連携加算はないため、本人から情報が聞き取れる場合には、全ての人にシートが必要とは思わない。
- ・入院連絡後にいただく在宅での情報は、入院後に必要な情報として重要です。速やかなご対応いただきありがとうございます。引き続き今後ともよろしく願いいたします。
- ・病院が入院時に必要な情報がどのようなものなのか知りたい。
- ・病院によって連携する体制が違う。
- ・退院や転院の連絡がない時もある。
- ・電話連絡で済ませる事が多い。
- ・FINELINK(商標名)が導入され、加入している事業所とはとても連携しやすくなった。一方で加入していない

【入院時情報提供シートについてのご意見・ご要望】

- ・一度入力してしまえば労力はかからないが、初めての入院で一から作成する場合、労力がある。そんな時、もっと簡素化できないかと思ってしまう。
 - ・三田市は決まっているシート使用していますが、他市病院に入院した際は独自のフェイスシートにて情報提供をしている。三田市内の病院でも独自のシートでの情報提供でもよいのでしょうか？
- 情報提供シートの送付先がわからないことが多いので受け取る担当を決めてもらうとありがたいですが難しいでしょうか。
- ・何に利用しているのか教えてほしい。簡素化してほしい。
 - ・少し記入がしにくい。
 - ・病棟で活用するにあたっての要望について確認していませんが、現時点では特に聞こえてきておりません。
 - ・入院時情報提供シートは使用しているが、病院側で活用できているのでしょうか。

【主なご意見への回答】

Q1、入院時の情報提供および入院時情報提供シートについて

A1、入院時情報提供シートは、本人の生活状況や住環境だけでなく、本人のパーソナリティ、家族背景、医療・ケアに対する考え方なども含めて情報共有することにより、医療・介護を要する本人の療養生活が円滑に移行できることを目的としていますので、支援者同士の情報連携へのご協力をよろしく申し上げます。シートの様式に関しましてはQ6およびA6を御覧ください。

Q2、入院時情報連携加算について

A2、入院時情報連携加算は、ケアマネジャーの支援経過記録に、提供日の記載と入院したという事実（入院日等）が確認できれば、入院数日前の提供でも問題ないと自他市の保険者の回答を得ていますので、入院が判明した時点で、入院前に情報提供した場合であっても、算定は可能です。
また、現在加算の対象ではない要支援者の方でも、入退院支援ルールの特長は円滑な連携であって加算の有無を前提としておりませんので、可能な範囲で情報提供にご協力をお願いいたします。提供について迷われましたら、入院先の医療機関にご確認をお願いします。

Q3、退院や転院の連絡がない、退院日の連絡がないことについて

A3、入院患者の方に、医療機関の地域連携室が介入していない場合には、連絡が難しいこともあります。また時間帯によっては地域連携室が対応できないこともありますので、在宅支援者の方から、入院先の医療機関の地域連携室に適宜、退院の方向性を確認されることをおすすめします。また医療機関の病棟看護師などへの本ルールへの理解促進については、地域連携室を通して可能な限り調整をお願いしてまいります。

Q4、シートやサマリーの情報内容や活用方法について

A4、情報提供の内容は、三田市在宅医療介護連携推進会議等で確認しております。毎年協議が必要かと思しますので、ぜひケアマネジャー、地域包括支援センターの現場の方々には、会議に出席している各職能の代表者の方に、意見をまとめて伝えるようにしてください。活用方法についても、なんらかの形で発信できるように調整していきます。

Q5、情報のICT化について

A5、統一したICT化の推進は、各事業所の考え方や予算などから難しい課題と考えております。しかし、情報連携は、これからの医療介護連携にとって重要な項目だと考えますので、三田市内の医療・介護関係者と意見交換などを積極的に実施し、各種会議等で継続的に協議してまいります。

Q6、入院時情報提供シートの様式について

・様式を適宜修正はしておりますが、万人が使いやすいということは難しいと思います。三田市役所のホームページにてExcel式で配布しております様式を、アレンジして使用いただくことは可能です。シートはあくまで標準様式ですので、項目が満たされておれば他のシートをご利用いただいても問題ありません。当然、不足分や記載が間に合わない時は、面談などして口頭で補うことも問題ありません。

【あとがき】

この度は、皆様お忙しい中を当該アンケートにご協力いただきありがとうございました。
ご承知のとおり、「入退院支援ルール」は、入退院の際に必要な医療・介護サービスが切れ目なく受けられるように、入院が決定した時から早期に情報を共有し、退院に向けてカンファレンスやサービス調整を行う連携のしくみを標準化したものです。三田市内の医療・介護の関係者が参画する「三田市在宅医療介護連携推進会議」において、病院、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等が中心となり、入退院時の連携について検討を重ね、共通ルールとして平成30年6月に作成されました。以降、皆様からいただいたご意見を、三田市在宅医療介護連携推進会議にて協議し随時更新を行っております。患者さんや利用者さんが安心して療養生活を続けられるよう地域全体で支えるため、運用へのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。